

平成 26 年度の学校評価

1 建学の精神

不言実行 あてになる人間

(1) 「入れる学校」から「入りたい学校」へ

- ア 特進コース、一貫コース、女子生徒の入学増を図る。
- イ 授業を大切に、授業工夫を行うことで、「わかる授業」の展開と推進を図る。
- ウ 授業に取り組む生徒・教員の姿勢の向上を図る。
- エ 生徒の家庭学習の定着を図る。
- オ 教員の細かな指導により、生徒が自信を持てるようにする。結果として、学力不振者の減少を図る。
- カ 年間退学率を 2.5%未満にとどめるよう、生徒一人一人の指導に配慮する。
- キ いじめを許さない学校風土の醸成を図る。
- ク 授業評価や公開授業のアンケートに基づく教員の意識改革とレベルアップを図る。

	重点目標	具体的方策	評価と課題
渉外部	(1) 募集定員を確保する努力 (2) 普通科コースの特色の発信 (3) 中部大学との「高大一貫教育」の発信 (4) 建学の精神「不言実行、あてになる人間」の具現化	(1) 教育力の高さをアピールする。 (2) 本学園の教育制度を活用し、高大一貫教育の推進と女子生徒数を増やす方策を検討する。 (3) 特待生、スポーツ奨学生を含めた成績優秀者の募集に努め、定員を確保する。 (4) 学習・部活動や学校行事等、元気で 魅力ある学校をPRする。	(1) 4回実施の学校見学会を通じ、本校のイメージ向上の成果が見られた。 (2) 一貫コースの特徴を各中学校に説明をし、成績基準の高い生徒の取得を目指したが、まだ不十分であった。 (3) 三河地区の私立高校の男女共学化により、女子生徒がやや減少した。 (4) 部活動を通しての女子生徒数の確保、日進地区の生徒の安定的確保が必要である。
総務部	(1) 災害発生時の対応の強化 (2) 総務部の業務のスリム化 (3) 総務部の役割の共有化	(1) 大規模災害発生時のマニュアルの整備をする。 (2) 現在行っている業務を精選しスリム化を図る。 (3) 仕事の固定化を避け、ローテーション化する。	(1) 大規模発生時のマニュアルの整備、災害伝言ダイヤルの活用訓練を実施した。 (2) 地区懇談会と学校見学会の実施時期等を検討した。 (3) 担当者の役割の多くを昨年と変えることで、仕事の共有化を図ることができた。
教務部	(1) 基礎学力の向上 (2) 新たな授業方法の実践 (3) 授業時間の確保 (4) 教務システム更新の検討	(1) 上級学校への進学や就職に向けて、関係分掌や委員会と連携をとりながら、教科・科目の基礎学力定着、向上を図る。 (2) 電子黒板の利用について、各教科で効果的な活用法を研修する。 (3) 学校行事の見直しや合理化により授業時間の確保を図る。	(1) 公開授業や平常授業での生徒の履修状況に対する指導や、基礎補習等の指導により成績不振者の減少化を図った。 (2) 多くの教科で電子黒板が利用され、理解に対して8割近くの生徒から高評価を得た。 (3) 学校行事等の見直しで90時間程授業時間数を確保することができた。それに伴い、考査後の成績処理等の工夫を検討したい。
生徒指導部	生徒の健全な成長を促し、良好な学習環境の確保に努める。 (1) 身だしなみ指導の徹底と規律の向上に努める。 (2) 登下校時のマナーの向上と交通安全に努める。	(1) 問題行動の抑止と発生時の初期対応に留意する。 (2) 職員による校外指導並びに啓発活動により、交通安全教育、交通マナー向上に努める。 (3) いじめによる問題行動の撲滅のため迅速な指導姿勢を持って臨む。	(1) 日頃の指導の結果、特別指導生徒指導数が減少した。第1学年の指導が課題である。身だしなみによる特別指導は今年度なかった。 (2) 講演会をはじめ交通安全指導の充実を図っているが、自転車マナーの苦情等があり、より指導の徹底の必要がある。 (3) いじめ防止対策のため、生徒アンケートや面接を行い、防止対策の校内環境の整備を図ることができた。
特活部	(1) 全員参加型の生徒会行事を継承し、実施内容の質と魅力を高める。 (2) 部活動を物心両面で支援する。 (3) 教育相談を充実させ学年・分掌との連携を図る。	(1) 文化祭のクラス参加を年度当初から推奨し実行委員を活用する。 (2) 水泳等活動のない部の個人に対する支援を継続する。 (3) 予算消化実績、顧問人数に応じた推進費配分(小規模予算に限る)を行う。 (4) カウンセラー、学年会、生徒指導部との連絡を密にする。	(1) 文化祭等学校行事へのクラス参加割合は高まったが、今後さらに高める必要がある。 (2) 部活動支援は適正化しているが、部数・活動実態に応じた年ごとの対応が必要である。 (3) 教育相談における迅速な報告と情報の共有と共に、専門家との連携を図る必要がある。
研修部	(1) 研修会の充実 (2) 現職教育の模索 (3) 各種意識調査を実施 (4) ESD(持続可能な開発のための教育)活動	(1) 初任者研修会(5回)、初任者研究授業(2回)を実施する。 (2) 講演会を実施する。 (3) 学校生活意識調査・学校評価(保護者対象)の実施と分析をする。 (4) ESD活動へより積極的に参加できる協力体制を構築する。	(1) 初任者研修会は、従来の校内研修のほか、大学講義の受講や私立学校展へ参加し成果があった。 (2) 中部大学 三島浩路教授から、「いじめの動向と対応」「携帯電話に関するトラブル」の内容の講演を実施した。 (3) 生徒の勉強時間等の過去との比較等のデータを出して検討した。 (4) ESDに関するユネスコ世界会議に伴うさまざまな取組に積極的に参加した。
進路指導部	自分の興味や適性を早期に自覚させ、主体的に自らの将来の目標を設定し進路を確保する。	(1) 進路未定者を出さない。 (2) 中部大学への進学を確保する。 (3) 中部大学100名、就職一次合格80%、国公立大学10名、進路未定者0名を実現させる。	(1) 就職一次合格74%と大幅に増加。その結果、早期に就職希望者全員の進路が確保できた。 (2) 高大連携等積極的な取組もあり、中部大学へは、121名が合格できた。 (3) 国公立大学には7名の合格であった。

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
普通科	(1) 3か年の学習計画に基づき学習先頭集団を育てる。 (2) 中部大学への進学希望者を増やし、合格に導きながら、学習意欲の向上と学力の向上に繋げる。	(1) 学校全体の学力実態を把握し、基礎学力向上へ繋げる。 (2) 各コースの特徴を生かせるようなプログラムを検討し、実施していく。 (3) 家庭学習の充実と学力の定着を図る。	(1) 中部大学普通科合格者の割合が50%以上を達成するとともに、推薦で国公立大学合格者を7名出すことができた。 (2) 4コース化に伴い、学年・コース・文理に合わせた、きめ細やかなクラス運営を行った。英語強化のより効果的な指導を模索したい。 (3) 高大連携テストに向けての実力向上と、家庭学習の充実に向けての学習方法の提示等の工夫が必要である。
機械電気システム科	(1) ジュニアマイスター顕彰取得者を増加させる方法の確立 (2) 3級技能士「電気機器組立～シーケンス制御作業」受験への準備	(1) 資格・検定の内容を計画的に、授業内容に関連づけて指導し、意欲的に効率的に取り組む工夫を行う。 (2) 技能士受験を目指し、授業内容の改変や、施設設備の充実を行うとともに、教員の指導技術向上に努める。	(1) ジュニアマイスター顕彰は、シルバー20名、ゴールド7名の取得者が出せた。より多くの科目や受験者を出す環境づくりに努めたい。 (2) ジュニアマイスター合格が身近な目標となるよう、基礎学力の向上と進路活用を明確にする。 (3) 技能士試験は、「普通旋盤」1名であった。次へつながる環境整備をしたい。
1年生	(1) 生活面は、高校生としての基本的な生活習慣を身につけさせる。 (2) 学習面は、資格取得や進路目標など長期的・短期的な目標を持たせる。 (3) 各コース・コースの特徴を生かした取組を行う。	(1) 4月のオリエンテーション合宿やHRを有効的に活用する。 (2) 資格取得(英検やS科の各種検定)・補習・自習室での学習等さまざまな機会を捉えて継続的に指導する。また、家庭学習の大切さを理解することにより、学習習慣を身につけさせる。 (3) G科、転コースや文理選択に向けて、HRや総合的な学習の時間を通して、多くの情報を生徒に発信する。S科、将来の職業と向き合いながら、ジュニアマイスター取得の基盤を作る。	(1) 4月のオリエンテーション合宿での高校生活ガイダンスは効果があった。 (2) 学習態度は概ね落ち着いてきた。長期休暇中の課題提出に遅れる生徒が見られた。 (3) 普通科は、前期はマナトレを実施し、基礎学力の向上を行い、後期は帰りのSTで英単語の小テストを実施し、英語学力の向上を目指した。機械電気システム科は積極的に資格取得に取り組む、計算技術検定・情報技術検定・基礎製図検定等ジュニアマイスター合格の成果をあげた。
2年生	(1) 学校生活で中心的役割を果たすために生徒の意識と行動力を高める。 (2) 進路目標を早期に持たせ基礎学力を高める。 (3) 各コース、系に沿ったきめ細かい指導を行い、積極的な資格取得を目指す。	(1) 中弛みしないよう、生活全般に渡って、繰り返し指導を心掛ける。 (2) 学校生活に関する保護者への連絡について要点を確実に伝える。 (3) 進路指導を充実させ、具体的な目標を設定させる。 (4) 学習習慣を身につけさせるよう継続的に指導する。	(1) 学年集会等を利用し生活全般への指導の結果、落ち着いた学校生活を送ることができた。 (2) 欠席や遅刻が常習化してきている生徒に対し速やかに面談を行い、改善を図った。 (3) 帰りの小テスト(英単語)、機械電気システム化のマナトレ(数学)の実施に伴い、テストに向けての学習姿勢が高まり基礎学力の向上につながった。 (4) 欠席数などの生徒の状況の情報をより具体的に教員間で共有でき、生徒指導ができた。
3年生	(1) 進路にあった学習指導を行うとともに学習環境の充実を図る。 (2) 各コースの特長を活かした指導で全員の希望進路の実現を目指す。	(1) 目標のある落ち着いた生活を送るため、進路目標の決定と学習習慣を確立させる。 (2) 各コースの特長と独自性のある取組を展開し、目的に応じた進路選択で、早めの進路決定ができるよう指導する。	(1) 進路について具体的に現実的な指導の結果、就職希望者については12月までに進路の決定。進学についても121名中部大学合格をはじめ成果を出すことができた。 (2) 教員間の連携と家庭との連絡を密にすることにより、問題行動数の激減、学習並びに落ち着いた生活習慣を送ることができた。
総合評価	<p>本校の建学の精神「不言実行 あてになる人間」の教育理念のもと、「入れる学校」から「入りたい学校」と認知されるよう、本年度もさまざまな教育実践を行ってきた。</p> <p>学習指導面では、学校行事の見直しにより、授業時数の確保、公開授業や平常授業での履修状況に対する指導を図り生徒の学習姿勢を高めるとともに、「分かる授業」を目指し、多くの教科で電子黒板の利用し、教員間の研修も行った。基礎学力の向上を図るために、マナトレ、小テスト、英検、漢検に対する取組を行う一方、自習室の設定と個別指導により学力伸ばす指導も定着化している。</p> <p>生徒指導面では、学年との連携により、生徒アンケート・面接によりいじめ防止対策の校内環境の整備を図り、早期発見・早期指導ができる体制を整えた。身だしなみ指導による指導や問題行動による指導も激減している。交通安全指導については講演会をはじめ実施しているが、自転車マナーの苦情もあり、より生徒の意識向上を図ることが課題である。</p> <p>進路指導では、高大連携のさまざまな事業により中部大学希望者増加を図るとともに、国公立や他大学への進学に向け、補習・衛星補習・学習合宿に取り組んだ。その結果、中部大学121名の合格をはじめ、国公立大学7名の合格を出すことができた。就職指導では、就職一次合格74%と大幅に増加することができ、その結果、12月中には就職希望者全員の進路が確保できた。就職先の新たな開拓に努めたい。</p> <p>特別活動では、ESDに関するユネスコ世界会議に伴うさまざまな取組に積極的に参加し、生徒が「大村愛知県知事と語る会」をはじめ「ESDこども会議」でも発表することができた。</p> <p>部活動では、男子バスケットボール部(3年連続8回目)・男子ソフトボール部(4年ぶり2回目)・少林寺拳法部(男女)が愛知県を制し全国高校総体に出場すると共に、男子バスケットボール部(2年連続3回目)・男子ソフトボール部(4年ぶり2回目)は東海高校総体でも優勝することができた。その他にも、女子バスケットボールは県高校総体で5位に入賞した。一方、文化部では、吹奏楽部が、地区大会を勝ち抜き30数年ぶりに「平成26年度愛知県吹奏楽コンクール県大会」に出場したのをはじめ、地区のアンサンブルコンテスト等で金賞を獲得した。また、写真部、チアリーダー部とともに日進市のイベントにも出演し、地域活動も積極的に推進している。</p>		